

# 常新新聞

刊夕日五十月七

定価 一冊金貳錢  
 郵税 五厘  
 廣告 五號十二行  
 料 五字一錢  
 五字一錢  
 日刊 休 日曜大祭  
 日 祝日、翌  
 福島縣石城郡平町長橋町三五  
 發行所 常警毎日新聞社  
 電話 六三〇番

日刊 發行兼編輯人 川崎文治  
 本社 同番地 (電話六三〇番)  
 印刷所 常警毎日印刷所

### 寄書

#### 藝術始源に 關する一考察 (四)

吉田 九郎

それは人間共同の勞働に氣分の上の統一を興へ、又は之に準備的の氣分を及したものに地ならなかつた。田植歌等の田植における効果或ひは戰鬪的舞踊の、來るべき戰爭に對する豫行演習的役割等がその實例である次に本篇における中樞の研究對象たる文學であるが、之は比較的後れて發生したと考へられる。元來どの藝術が先に發生して、どの藝術が後れたかと云ふ様な問題

題を論ずる場合には、固より直接の證據は無いのであるから、今日我等のなし得る程度において、合理的の推定に俟つより外はない。文學が舞踊より後れて發したと云ふことも文學そのものを成立せしめる要素たる言語の、その發達の過程を言語學上から探究した結果である。

即ち言語は、人類と共に古い歴史を誇るものではあるが、それが文學の如きものを成立せしめ得る程度の語義の明確さと、従つて語数の豊富さとにまで發達したのは比較的後代の事に屬すると云ふ事から、推定した

結果に外ならない。原始時代の言語が多く發達して、文學らしいものを發生せしめ得る段階に入つても、それは言語が比較的進歩を遂げたといふに過ぎない。意義の不明確は當時未だ脱却し得なかつた。今日吾々が文學と他の文書とを區別するに當つては、先づそれが主として人の感情に訴へる力を持つか否かによつて識別するのであるが、社會全體が語義の明確性を欠く言語のみを使用して居る時代にはこの區別は不可能である。

### 夏服

輕快で潇洒な夏服の季節となりました。新製のレディーモードが豊富に取揃ひました……

- ◇輕裝上衣
- 黒セル・六・五ヨリ
- カシミヤ・九・五ヨリ
- パンビス・五・〇ヨリ
- ◇白直衣
- 二・〇ヨリ
- ◇白ツボン
- 三・〇ヨリ

平町三丁目  
 なかや洋服店  
 電話二〇三番

### 常磐文藝

葉山不二夫

閑ひ

うつし世に  
 何がなし  
 穩かならぬわが胸の  
 狂はしく  
 行き來せし  
 橋のたもと。

ゆるぎ流れに  
 ただづみ  
 寂びたる影を  
 うつす水面に。

夢より淡けく  
 浮びし藻の花  
 わが心の糸を  
 みだしつゝ……  
 何處の淵瀨に  
 宿るやも。

### 内科専門

— 需應院入 —

消化器病科  
 呼吸器病科  
 小兒内科  
 一般内科

## 渡邊内科醫院

平町鼠坂 (電話一六一番)

### 齒科

◆ 露披業開 ◆

口齒  
 外科  
 一般

## 神谷齒科醫院

平町古鍛冶町八十八  
 日本齒科 神谷 辰夫  
 醫學士

### 内臓外科 専門

骨關節外科  
 整形外科

## 藤本 順

院長 木村寅次郎

平町新川町  
 産婦人科 木村病院  
 電話一六四番

## 久全屋商店

警城セメント會社特約店

警城平町五丁目 電話九番 一三九番

▽良品廉賣、勝る商畧なし△  
 △確實敏捷は釜屋の生命なり△

### 小使採用……本人來談あれ

平町三丁目

## 七十七銀行平支店

株式會社 (電話四一四番)

公債、兩替 債券、質商

## 多田井ワカ商店

平町大工町

### 品質本位

酒銘 醇芳

# 白馬

の程願 御用命 上ます

辰ノ口 本家

平窪 松本 徳一  
 電話「平」七五二番

### 學生夏服

1・2年用	85 錢
2・3年用	95 錢
3・4年用	105 錢
4・5年用	115 錢
5・6年用	125 錢
高等科用	160 錢
中學生用	240 錢

各種子供服 夏帽子  
 ネクタイワイシャツ取揃

五丁目 電話三五三

## モリヤ

坊ちやん嬢ちやんの衛生的な食事として滋養の多い

飛切うまい松本屋のパン

一斤 十六錢

一つ五錢

目丁四町平

## ヤトモツマ

番四一二話電

# さの鎌田橋川畔 砲煙彈雨の巷と化す

## 青訓の壯烈な演習 警城舞子に一日の清遊

既報平青年訓練所を中心とする各團體野外演習は、焼くが如き炎熱をもつともせず、昨日盛大に決行された。昨日午前七時半元平商校庭に

### 参集せる

一同は南方に而して整列、剣戟たる喇叭の吹奏裡に遙拜式を行へ平軍分會長山崎清三氏の音頭にて萬歳を三唱、夫れより平商校山内大佐、其他の統監部を中心に、平町本町通りを行進し鎌田橋を挟んで愈々壯烈な演習は開始された、即ち假想に基き四倉附近から上陸した中隊長麻原吉五郎氏の辛ゆる北軍(平商生)と同藤田榮助氏指揮の南軍(訓練所生)とは端なくも

### 鎌田川の

兩岸に相對峙して遭遇戦を開始するに至れるものにて同所附近は砲煙彈雨の修羅場と化し兩軍互ひに相譲らず接戦激烈に及んだが遂に北軍は鎌田橋東端に火を放つて濛々たる煙幕を揚げ南軍の眼を晦して

### 總退去に

移れば南軍は勢ひに乗じて是れを追撃附近に群集せる觀衆は此の壯烈なる光景に思はず喚聲を擧げて止まず、斯くて中神谷田圃の木立迄退去せる北軍は此處に踏み止まつ

日午前九時より中町公會堂に開催されるが出場希望者は同村神谷市郎氏宛申込まれたいと

## 三日間の 体育講習

### 警中コートに

警陽俱樂部及び警城體育研究會合同主催にて八月廿日から三日間警中コートに於て体育講習會を開催する由にて講師は左記の如く受講希望者は警中第二校宛詳細問合せられたしと

## 排除の理想

### 勿來養鶏組合

石城郡勿來養鶏組合多産鶏系統繁殖の孵化事業は着々具體化同町内組合員には殆んど分配され愈々本郡各町村に分譲されんとするものなる種禽四百羽收容の縣下模範種禽舎を建坪五十四坪



家庭 欄

### ロールキヤベツ

材料 鱈三十匁、蒸インゲン十匁、片栗粉十匁、

## 高燭街燈

### 面目を一新

王費一千五百圓にて二日竣工した更に同組合小松章氏は本縣下養鶏家が愛知千葉方面から雛の購入してゐるのを嘆し好聞小名濱草野の町村孵化事業家に同組合の種卵を提供し協力して系統正しき多産鶏をつくり愛知千葉及他縣より出雛購入防止を計るべく八月中旬頃より郡下各町村を組合技術員三輪信成氏を講演行脚せしむると

### モダン平驛

平町の門戸たる新平驛舎は平町唯一のモダン廳舎として落成し去る十日から營業を開始したが鐵道當局では新驛舎にふさはしいやうにと驛前廣場へ二個の美麗な百燭街燈を建設したがこれがために驛前一帶は見違へる程モダン化した

## 平の氷水屋

### 健康診断嚴重

梅雨も明けて二三日來平町

カヤベツ三十匁、トマト十匁、煮出汁、砂糖、鹽(醬油二人前)  
調理法 鱈は三枚に卸し皮を取り縦二つ切りとし小骨を抜く蒸インゲンはスチを切り、サツト茹で、水を切るカヤベツは一枚つ、剝し熱湯に暫時浸し、軟かくなつた時に水をきるカヤベツを粗板の上に擴げ鱈と蒸インゲンを平に入れて巻き被る位の煮出汁で暫らく煮砂糖醬油で味を調へ出來上つた物は適宜に切り皿に盛り、残り汁は再び火に掛ける、残りを湯に入れて煉り上げ掛汁としてトマトは熱湯をかけて皮を去り輪切りにしてアデに取り合せ

## 夏期休暇を利用し 學童の職業を指導

### 紹介所と聯絡をこころ

石城郡各小學校では少年の職業紹介と云ふ事を重大視し卒業兒童に直に職を與へ將來を誤らしめない様町立職業紹介所等と連絡をとり種々盡力して来た結果少年の紹介に頗る良成績である

職業紹介事務囑託谷口秀兩氏を招き講演を依頼するに決定したが新に平で購入した性能検査器の使用法等についても研究をなす由

## 石城山間の 蕨出廻る

### 買馴れ七十圓

石城地方に於ける春蕨は七月中旬に出廻り最盛期となり澤渡、川前、永戸の山間方部が目下出廻期で同方部

### 磐東其他總會

石城郡植田町磐東銀行株主總會は廿四日午前九時より同行

### 募集

文藝其他投稿を募集します

に開會し同町植田水力電氣會社株主總會は同日午後二時より磐東銀行に開くと

## 明日の豫氣

南寄りの風晴れ温度上昇り夕立模様

夏衣の柄な粹  
衣の柄な粹  
衣の柄な粹

平田屋  
目丁三平